
独り言葉

夢野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

独り言葉

【Nコード】

N1190P

【作者名】

夢野

【あらすじ】

佐野優は現実では完璧な人間だった。容姿端麗、文武両道、優しい性格の持ち主。皆に好かれていた。でも、ネットの優はまったく逆の人間を演じた。不細工で馬鹿で運動音痴で陰キャラ。そのハンドルネームはまっちゃ。毎日のようにチャットをし、掲示板に書き込み、誹謗中傷をネットに書き込んだ。そんなある日、この世界からネットというものは消えた。掲示板やチャット、SNSなどのサイト存在はしていたが、それを使えるのは優だけだった。すべての人間がネットという存在を忘れ、すべてのサイトの更新がスト

ップされた。　優はそんなネットなんてやめようとしたが、やめられなかった。気づいたら、パソコンの前に座り、独り言をネットに打ち込み続けた。もしかしたら、誰かネットにいるかもしれない。そんな儚い希望を信じた。　そして、あるサイトが自分以外の人間により更新されていることに気づいた優は驚いて、急いでそのサイトに登録した。　サイト名は『L o n e l y』孤独という意味だった。

第一話【世界でたった一人】（前書き）

注、この小説にはいくつかネット用語がつかわれています。

第一話【世界でたった一人】

六畳ほどの小さな部屋。ベットの下に散らばる教科書や参考書には『受験に勝つ方法』『試験で数学完璧!』などのうたい文句が書かれてあった。ここにいる人は受験生なのだろう。だけど、その人はまったく勉強していなかった。部屋の電気を消し、パソコンの明かりしか無いその部屋で、その人はただ画面を見ていた。画面の向こうを笑う事も怒る事もなく、ただ無言で無表情でキーボードを叩いていた。

『さよ…』

まっちゃん『さようならゴールデンウィークですね』

長谷川? 『明日学校だりーwww 数学と世界史とかない』

まっちゃん『まっちゃんの所も明日数学です』

長谷川? 『まっちゃんさんの数学教師ってどんなん?』

まっちゃん『メガネで無駄に背が高くて、んでガリガリですね 死神みたいなwww』

長谷川? 『俺の所逆w デブで豚だよ豚www ちょっとは痩せろm9(＾Д＾)プギヤー』

まっちゃん『その肉をまっちゃんの先生に分けてん(＾ω＾)』

パソコンの向こうには誰かがいる。ネットという糸で繋がった一人の人と。このチャット内では長谷川?は高校二年生の男を演じているが、本当は四十七歳の中年オヤジかもしれないし、二十歳の絶景の美女かもしれない。それでも、誰かと話せるだけで嬉しかった。まっちゃん。というハンドルネームを持つこの人の名は、佐野優。二年ほど前からチャットを初めて、今では毎日のようにチャットをし、ネットの向こうの人と会話をしている。受験生だというのに、

勉強は全くしていない。母親が買ってきた問題集も一切手をつけていなかった。勉強なんかよりネットの方がずっと魅力的だったからだ。

まっちゃん『長谷川？さーん。まっちゃん、学校行きたくない。イジメられる』

長谷川？『マジ？』

まっちゃん『イジメってか、陰キャラだからさww』

ムニーさんが入室しました。

ムニー『おはようございます。』

まっちゃん『こんばんは』

長谷川？『こんばんわー』

ムニー『まっちゃんさん イジメられてるんですか…？』

まっちゃん『そうなんです…まっちゃん陰キャラで…。リア充爆発しろwwww』

ムニー『リア充爆発しろwwww』

長谷川？『リア充爆発しろwwww』

少し優が笑ったその時、誰かが階段を上る音がして、慌ててノートパソコンを閉じる。その誰かは優の部屋のドアをノックした。優の母親だった。

「優、御飯よ。」

いいところを母親に邪魔されて、優は舌打ちした。

「今行く。」

母親はそれを聞くと階段を下って行った。優はドアの向こうにいる母親を恨めしそうに見てから、ノートパソコンを再び開いて、キーボードを叩いた。

まっちゃ『すみません。急用ができたんで落ちます。』

長谷川？『じゃあ、また』

ムニー『バイバイ。また明日ねー』

優は二人のその『また』という言葉を見て、なんとなくほっとした。毎回この言葉を見ないと優はそこから立ち去れなかった。優はノートパソコンを閉じて部屋を出る。パソコンが青く光ったが、優はもう、部屋の外に出ていた。

佐野優は、とても綺麗な人だった。母親は昔モデルをやっていて、その母親に似た優はとても綺麗に育った。成績も良かった。志望校は一流の国立大学だが、学校からはこのまま普通に勉強すれば大丈夫だろうと言われている。それは弁護士である父親に似たのだろう。そして、優の現実の性格はとても良かった。気さくで人懐っこく、差別することなく誰にでも優しく面白くて、どんな人でもすぐ仲良くなれる。男女関係なく、いつも優の周りには人がいた。

優はネット用語でリア充といわれる人間だった。

でも、ネットでは違った。現実では絶対にさらけ出さない性格をネットに吐き出している。悪口、誹謗、中傷、止める気は全くなかった。現実で良い子を演じているのも疲れる。優はネットでは陰キヤラの中学一年生の女子を演じていた。

その名をまっちゃ。友達はいない。不細工で人見知りでクラスでは軽くハブられている。成績は下から数えた方が良い方。運動はまったくできない。

現実だったら誰も相手しないような人間を佐野優が演じていた。

ネットはどんな人間も相手してくれる。人間の心の奥底が見られる場所、それがネットだった。

今まで、色々な人間を演じた。小学生の痛い女の子、中二病の中

学生男子、チャラ男、まともな女子高生、真面目すぎるサラリーマン、子持ちの十八、とある会社の社長、……。数え切れないほど演じてきたが、一番キャラが安定しているのは、今のまっちゃだった。

まっちゃを演じるのが優の一番の楽しみだった。

ネットがなくなったら、自分は何していたか考えて、優は考えるのをやめた。ここ以上に楽しい所なんて無いだろう。それにネットがなくなるわけない。日本が戦争にでも巻き込まれない限り。

そう思っていた。

優も長谷川？もムニーもそして、ネットに依存するすべての人々がそう思っていた。

世界は変わって、優はたった一人になった。

第一話【世界でたった一人】（後書き）

一年ぶりに書いた作品です。

受験もあるので、亀並みに遅い更新になります。

これから、この作品をよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1190p/>

独り言葉

2010年11月27日22時39分発行